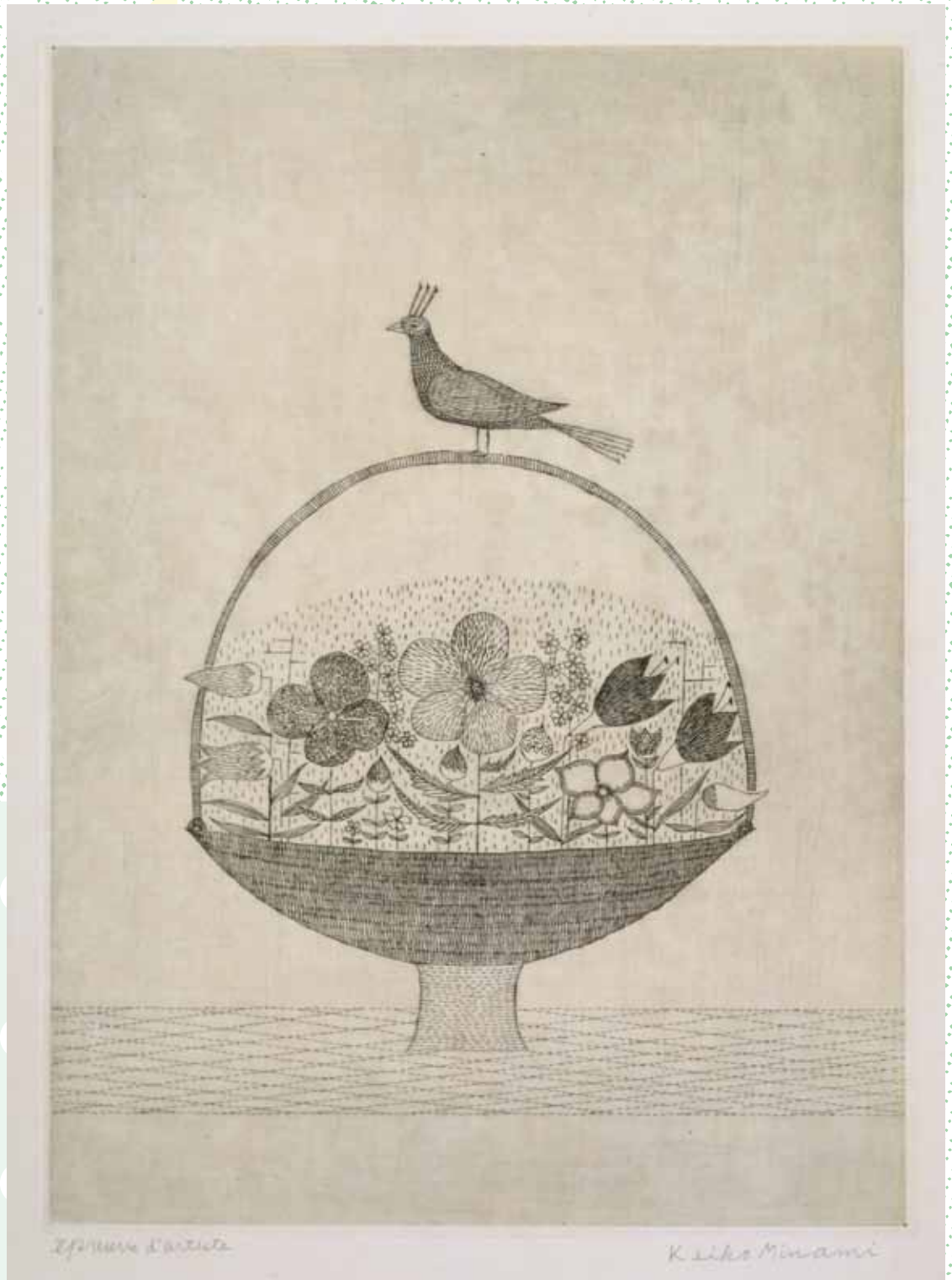


2017.3.4 sat - 5.7 sun



Musée
Hamaguchi
Yozo
Yamasa
Collection

ミュージゼ浜口陽三・ヤマサコレクション



南桂子
銅版画展

花かごを抱えて

休館日 月曜日(3/20は開館)、3/21(火)

開館時間 11:00~17:00(土日祝10:00~/最終入館16:30)

《ナイトミュージアム/会期中第1・3金曜20:00まで開館/最終入館19:30》

入館料 大人600円/大学・高校生400円/中学生以下無料

※第1・3金曜…3/17、4/7、4/21、5/5の4日間

※4/22(土)はワークショップ開催のため1階展示室が鑑賞しにくくなります。

※休館日、開館時間等は都合により変更する場合がございます。



ごあいさつ

夢と現のあいだを、はだしで散歩するような、あたたかな孤独に包まれて、南桂子(1911-2004)の作品は今もここにあり続けています。

のちに20世紀を代表する銅版画家となる浜口陽三との出会いをきっかけに、戦後のパリで銅版画家の道を一途に歩んだ南桂子。作品の世界は、遠くをみつめるまなざしでつくられたその日から、今日とは別の時間軸に存在し、いつまでもいつまでも変わることはありません。

眼に映る色をもう一度つくりなおしたような新鮮さと、心に寄り添うなつかしい時間を、春のひとつときにどうぞお楽しみください。

南桂子の銅版画約50点と浜口陽三の銅版画約20点を展示します。

南桂子 (1911-2004)・銅版画家

富山県射水郡(現高岡市)生まれ。幼少期から絵や文学の創作にいそむ。1953年、渡仏。本格的に銅版画を学びはじめる。数年のうちに、作品がフランス文部省に買い上げられるなど、パリで高い評価を得る。ユニセフのカードやカレンダーにも採用され、より広く世界中の人々に受け入れられた。



●コーナー展示「お菓子和包み紙」

静岡・沼津の老舗菓子店「旭園本店」(1901年創業)が1970年代から2000年まで南桂子の絵を包み紙や掛け紙に使用していました。本展では当時のお話と共に、実際に使用していた掛け紙を3点展示します。併せて、70年代当時には既に親しまれていた、都内の洋菓子店「自由が丘モンブラン」(1933年創業)と、「マッターホーン」(1952年創業)の包み紙も紹介します。

「旭園本店」で洋菓子の箱の上のせて使用されていた掛け紙
夏用の「マロニエと少女」



左「自由が丘モンブラン」の包み紙(部分)
画：東郷青児(1897-1978)・洋画家

右「マッターホーン」の包み紙(部分)
画：鈴木信太郎(1895-1989)・洋画家



●ワークショップ「線と光のゆらめくグラス」

グラスに彩色されたエナメルを彫って模様を描きます。かりかりと描く手作業による線は南桂子の銅版画にも通じるあじわいです。土台となるグラスは講師の戸田晶子さんに制作いただくオリジナルです。グラスは後日「焼き付け」して発送します。



※イメージ画像
※おひとりにつきグラスは1つです

講師：戸田晶子(ガラス作家)

日時：4月22日(土) 第1回 10:00~12:00 第2回 14:00~16:00

定員：各回10名

対象：小学生から大人まで

参加費：3200円(入館料・材料費含む)、グラスの着払送料が別途かかります

持ち物：エプロン

※お申し込み後、直前でのキャンセルはご遠慮ください

イベント申込み方法：3/22(水)11:00より電話にて受付開始(先着順、開館時間のみの受付です)

ミュゼ 浜口陽三・ヤマサコレクション

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-35-7

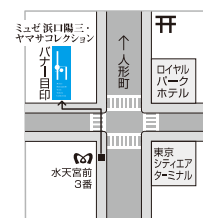
Tel : 03-3665-0251 Fax : 03-3665-0257

Mail : musee@yamasa.com H P : <http://www.yamasa.com/musee/>

アクセス：東京メトロ半蔵門線「水天宮前」3番出口そば
東京メトロ日比谷線「人形町」A2出口徒歩8分
首都高速箱崎IC「浜町出口」又は「清洲橋出口」



当館はぐるっとバスに参加しています



上から「花と蝶」1963年 34.6×28.8cm
「ノルマンディの教会」1969年 30.6×28.8cm
「木の中の青い鳥」1969年 37.4×28.9cm
「少女と塔」1972年 35.3×28.8cm
表面 「花の籠」1955年 39.0×28.2cm
※技法はすべて銅版画・紙